天才アートとは、障碍のある人やひきこもり者などの多くがもっている優れた感性と表現力、そこから湧き出る独創的なアート作品に対して、NPO 法人 障碍者芸術推進研究機構（天才アート KYOTO）が独自にネーミングしたものです。当機構は天才アートを推進し、その啓発・普及活動を積極的に行っています。

会報 No.40 天才アート

発行日　2025年6月20日（金）
発行者　特定非営利活動法人
障碍者芸術推進研究機構
天才アート KYOTO
発行所　〒603-8226
京都市北区紫野西舟岡町2番地
ふれあい共生館「きたアトリエ」
info@tensai-art.kyoto
http://tensai-art.kyoto
編集協力　株式会社 三六六

天才アート　検索

石原 寛子『増殖』 セロハンテープ・クレパス、サイズ可変、2024 年制作

展覧会 予告

大阪・関西万博 EXPOメッセ「WASSE」会場にて「天才アートEXPO展」を開催

天才アートKYOTOは、大阪・関西万博の期間に合わせ、関西圏を中心とした全国の美術館・博物館や教育機関・企業等と連携して開催される「第3回日本国際芸術祭」に参加し、EXPOメッセ「WASSE」会場にて「天才アートEXPO展」を開催します。

会期は、7月2日（水）から6日（日）の5日間で、3日は日本のナショナルデーである「ジャパンデー」が開催されます。会場は大屋根リングの西外側、西ゲート近くのEXPOメッセ「WASSE」会場です。

今回の展示では、所属アーティストの中から選抜した大場多知子・木下アラン海・足立茉莉・石原寛子・三津田一輝ほかの原画作品に加え、全アーティストの作品をパネル出展します。

また、普段はご覧いただけないアーティストがアトリエで制作に励む姿をとらえた映像や作品映像を上映いたします。国内や海外からのお客さまに当機構所属アーティストの作品がどのように受け止められ、反響があるか楽しみです。

会期　2025年7月2日（水）～7月6日（日）※最終日は12時まで
会場　EXPOメッセ「WASSE」会場
主催　NPO法人障碍者芸術推進研究機構
協力　（一社）夢洲新産業・都市創造機構
助成　（株）SCREENホールディングス・（一財）NISSHA財団・（公財）京都新聞社会福祉事業団

配布用パンフレット表紙

配布用パンフレットに掲載された「天才アートEXPO展」の内容

展覧会 報告

タッセルホテル三条白川にて企画展・青空美術館19号スタート

3月12日（水）～4月3日（木）まで、三条通白川橋たもとにあるタッセルホテル三条白川にて企画展「天才アートKYOTO・生の芸術－生きる－」が開催されました。

作品は、ホテルラウンジの壁面やショーケースに展示され、国内外の宿泊客に加えて一般の方も閲覧自由とあって、千人弱の来場者がありました。期間中グッズ販売を実施し、同ホテルから売上全額を寄付していただきました。

また、ホテル西側植栽エリアに青空美術館19号を併設。今後1年ごとにアートパネルを入れ替えていく予定です。

ホテルラウンジの展示風景

ホテル西側植栽エリアに設置された青空美術館19号

"防災"がテーマの「ふろしきSDGs LIFE 2025」に参加

5月16日（金）～18日（日）、京都文化博物館別館で開催された山田繊維株式会社の「ふろしきSDGsLIFE 2025」に実行委員会のメンバーとして参加させていただきました。今年のテーマは「防災」。いざというときのために、自分の手で結ぶ、運ぶ、守る知恵を身につけよう！と、海外のお客さまも含め多くの方が参加されていました。

実行委員会メンバーの紹介展示

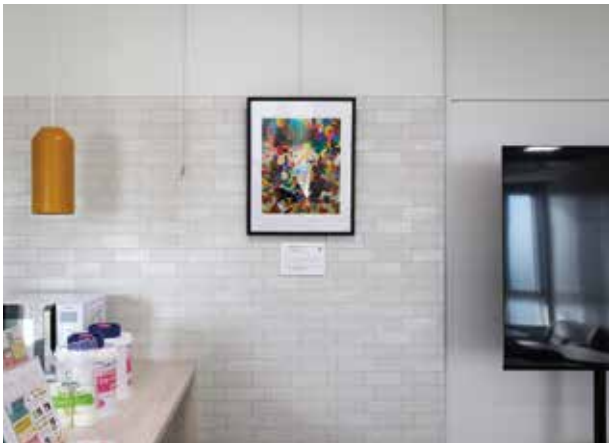
トピックス
レポート

複製画や原画レンタルの新規契約や定期作品入れ替え

●株式会社増田医科器械に新規採用

医療機器や理化学機器の総合ディーラーである株式会社増田医科器械は、昨年12月に高槻市に大阪支店を移転・新築され、本年1月よりオフィス内に複製画3点をレンタル採用していただくことになりました。

同社とは、広報誌「MASUDAナウ」の創刊以来、表紙に作品のアーカイブデータを採用していただいているというご縁があります。今回レンタルされたのは、創刊号・5号・9号の表紙採用3作品です。作品展示を発案された大原健志支店長は、「1枚の絵が飾ってあるだけで、部屋の雰囲気がとてもおしゃれになりました。また、複製画をレンタルすることで、障碍者の支援にもつながります」と語っておられます。


休憩室に展示された複製画作品

●株式会社村田製作所の作品入れ替え

2023年1月から作品2点をレンタル展示していただいている株式会社村田製作所の原画作品を本年3月に入れ替えを実施しました。なお、ロビーの同じスペースには同社からのコミッション作品である「洛中洛外電子図」も展示されています。

村田製作所の入れ替えた作品2点と「洛中洛外電子図」（右）

●株式会社堀場製作所の作品入れ替え

2024年3月から作品5点をレンタル展示していただいている株式会社堀場製作所では、本年5月に原画作品の入れ替えを実施しました。作品は応接室などに展示され、お客さまからも喜ばれているそうです。

堀場製作所の応接室などに入れ替えた作品

京セラ(株)本社カフェにタペストリー2点が揃う

5月22日（木）、京セラ株式会社本社カフェに展示しているタペストリー2点の原画を制作した登録作家のゆうだいさんが、京セラから見学に招待されました。今回新たに加わったのは、京セラからの依頼を受けてゆうだいさんが制作した作品で、日本代表でパリ五輪にも出場したミッドフィルダーの「京都サンガF.C.川崎颯太選手」。

川崎颯太選手も大変作品を気に入っていただいたそうです。昨年5月に完成した「きょうとふかめおかしサンガスタジアム」のタペストリーとともに、2点が揃って展示されました。

社員の皆さんも仕事や休憩時間にタペストリーを眺めながら、京都サンガへの応援の気持ちを高めておられるそうです。

タペストリーを前に写真に収まるゆうだいさん（中央）と担当の皆さん

村田機械株式会社
本社／京都市伏見区竹田向代町136
https://www.muratec.jp
▶ロジスティクスシステム ▶ファクトリーオートメーション ▶半導体工場FAシステム
▶繊維機械 ▶工作機械 ▶シートメタル加工機 ▶デジタル複合機／情報機器 ▶生産管理システム

TENSAI ART NOTE 天才アートノート

『無題』 画用紙・クレパス、H790×W1.094mm、2023年制作

木下アラン海

『無題』 画用紙・クレパス、H393×W546mm、2023年制作

木下アラン海　Kinoshita Aran Rei　2002 年生

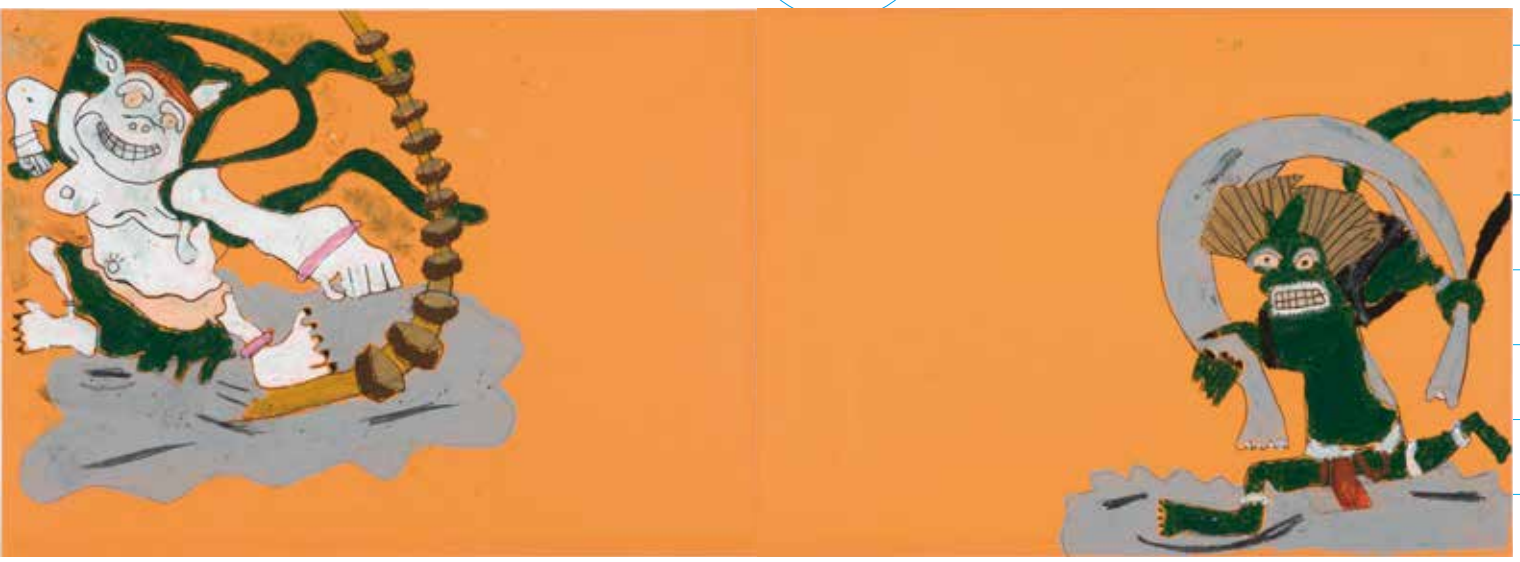
木下は、クレパスを画用紙に擦り込むように全身を使って描きます。時には床に大きな画用紙を広げて、ひたすらに描くこともあります。彼が作品の制作に取り掛かると、1 箱分のクレパスが無くなるまで猛烈な勢いで描き続けます。

全身の力を込めて描き出されたものは、ところどころにクレパスの破片がこびり付き、あたかも彼自身の「生命」すらも擦り込んでいるかのような強烈な色彩とエネルギーを放ちます。

三津田 一輝

三津田 一輝　Mitsuda Kazuki　1993 年生

三津田は図鑑や画集などからモチーフを選び出して描きますが、彼の手にかかるとそのどれもが生き生きと奔放に、そして時にユーモラスにデフォルメされることが大きな特徴です。この「風神雷神図」も俵屋宗達、尾形光琳といった琳派の絵師では想像もつかない独自の解釈が施されています。三津田の作品が、多くの観る者を惹きつけてやまないのは、描かれたモチーフの一つ一つが、鮮やかな色彩や独特のフォルムを通じて生命を宿すからかもしれません。



『風神雷神図』 色画用紙・クレパス、H390×W545mm、2013年制作

『蝶』 キャンバス・アクリル絵の具、H910×W727mm、2024年制作

『蓮と翡翠』 キャンバス・アクリル絵の具、H803×W1.167mm、2022年制作

大場 多知子

大場 多知子　Oba Tachiko　1977年生まれ

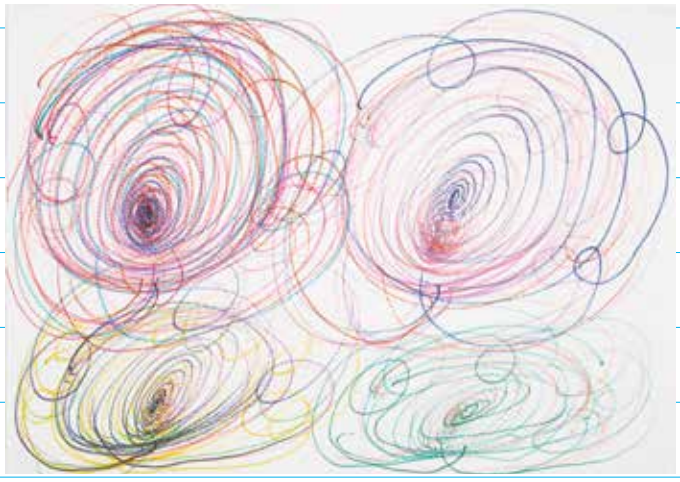
大場は、日常生活の中で見つけた「面白い、美しい、印象に残った」と感じたことを、例えば植物、動物などをモチーフに画面に散りばめるように描き上げます。どの作品も緻密で写実的ですが、その画中にはモチーフだけでなく昆虫や小びとが紛れていたり、ユーモラスなポーズをしているなど、彼女のちょっとした仕掛けやいたずら心が隠されていて、作品にストーリー性を生み出し、観る者の心をくすぐります。

『無題20231111-⑤』画用紙・カラーペン、H383×W543mm、2023年制作

足立 茉莉

足立 茉莉　Adachi Mari　2000年生

足立のドローイングは鮮やかな色彩で、渦巻きは多重に重なった「花丸マーク」や「花火」のようにも、あるいは「花」のようにも見えます。10代まではタイル様に絵の具で配色するように描いていましたが、2013年よりペンで渦巻き状に描く作風に変化し、その後渦巻きが1つから2つ、3つと10個までに増え、最近は鮮やかなタイル様に色塗られた背景の上に描くこともあります。
鑑賞者がどのような解釈をする場合でも、おのずとダイナミックに描く足立の身体性が浮かび上がります。



『無題20230723-②』画用紙・カラーペン、H270×W383mm、2023年制作

ご家族さまより寄稿

「描くことは生きること」

佐野 満智子

彰洋が、天才アートKYOTOにお世話になりはじめ、5年以上たったでしょうか。今22才、織りに関わる作業を習得中です。月2回の東山アトリエ通いがすっかり定着し楽しみに通っています。このたび寄稿の機会をいただきましたので、彼との22年を、振り返ります。

側溝（上）、多面体折り紙と粘土作品（中）、果物シリーズ（下）

●明るく育った幼少期

第一子として誕生。当初謎に気難しく、生活習慣が身に付きにくい、育てにくさを感じる子どもでした。1日二人で外を走り回ってばかり。砂場や遊具、親子の集まりで遊ぶことはなく、帰宅するのも一苦労でした。言葉が出れば、と待っていましたが、知的な遅れのある自閉症と診断されたのが、3歳前。

その後は適切な療育のおかげで謎が徐々に解け、親子関係は安定。幼稚園年長時に兵庫から京都に転居、小学校は育成学級に入りました。歴代の先生方は楽観的で、目の前の子どもをよくみて、暖かくご指導くださったおかげで、彼はのびのびと明るい人に成長していきました。

●絵と折り紙から数学・パソコンへ

絵は幼いころからずっとよく描いていました。最初に描いたのはローソク、その後アンパンマンシリーズ、換気扇、側溝、と続きました。同じテーマを流行りのように集中的に描き、次のテーマに移るという繰り返し。メロンパンナが気に入って黄色クレヨンがよく減りました。換気扇は粘土でも作り、側溝の連なりは大きな模造紙に描きました。折り紙が得意で、鶴に始まり、多面体を紙を合わせて作ったり、工程の多い蟹を折って、周りをびっくりさせました。果物、野菜、体の中や宇宙も描きました。そのころは色彩豊かで、見ていて楽しいものでした。

中学からは文字や数字に関心が移り、なかでも四則演算から円周率、デジベルやバイトなどの単位、巨大数、年号、画素数などがテーマに。白の紙に鉛筆書きになりました。興味ある分野はパソコンのインターネットから情報を仕入れ、知識量がとても増えました。

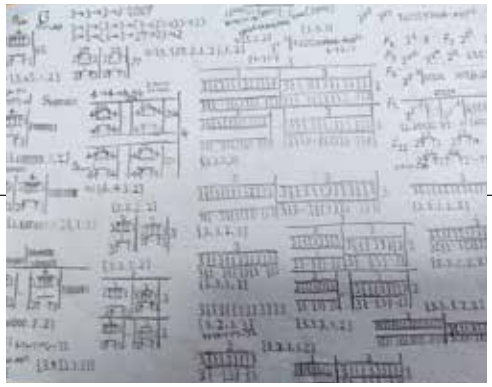
高等部に進学してからは、自立に向けた取り組みに重点をおき、成長と苦手克服を目指す日々。顔を見て話すなど特性上苦手な課題もありましたが、彼なりに頑張りました。注意されると暗く落ち込みますが、長い時間ではなかったのは、好きなものが家にあったからでしょうか。一方パソコンをさわる時間が増え、どうやって離れさせるかで悩むようになりました。

●数字が生み出すアートな世界

天才アートとご縁ができたきっかけは、落書きでした。鳴滝総合支援学校高等部2年だった2019年秋に一人で訪れた、呉竹総合支援学校の学校祭。落書きコーナーでタブレット片手に、数字を描きなぐっていたそうです。面接にうかがったところ、きれいに作った作品ではなく、普段の生活で自由に描いた落書きのようなものが大事で、それを見たいとのお話。これまで家で好きに描いてきた、あれがアートだったのかと、目から鱗でした。こうして作家として、年一回の作品展、2022年には「細部に宿る」に出展させていただき、家族皆喜びました。なにより、卒業後も余暇が過ごせる場ができたことに安堵しました。

数字を題材にするのは明快なせいでしょうか。あり得ない世界、想像しにくい世界も数字なら簡単に表せられ、数字を語る彼は本当に愉快な様子です。ネタは全くつきないようです。白コピーに鉛筆書きの落書きは、当たり前で、大袈裟ですが、彼にとって生きる活動そのものです。これからの人生、思うようにならず大変なこともあるでしょうが、好きな描く活動で、自信を持って生きてほしいです。天才アートは、貴重な社会とのつながりの場。ご縁に感謝しています。

数学作品



数学作品（上）と「細部に宿る」展会場での佐野彰洋さん（下）

退任理事からのご挨拶

前理事　浅野（あさの）　理々（りり）

このたび、6月末日で理事を退任することとなりました。1期2年間のご支援ご協力に深く感謝申し上げます。私は支援学校教員や市教委主事として障害児教育に長らく携わってきました。この2年全く新しい世界に入り、学ぶことも多く、幸せを感じておりました。作品が制作される過程、さらに展示されるまでの過程に間近で接することができ、作品それぞれが、一層その輝きを増し、人々の心に訴えるものになる一部始終を学ぶことができました。

当機構は多くの企業や団体のご支援で運営費が賄われ、制作および発表の環境が充実しています。今夏、天才アートＥＸＰＯ展も予定され、今後一層全国や世界への扉が開かれ、知名度が上がることと思います。

ただ、実情は専従職員1名と非常勤スタッフが、経理に関わること、広報に関わることを含め、作品制作と展示に関わる全ての業務を担っています。組織が刷新された今、皆さまには今後の一層のご支援とご協力を賜りたくお願いするばかりです。

末筆ながら、作家・ご家族さまのご健勝と当機構の益々の活動の充実を心よりお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

新任理事からのご挨拶

理事　多田（ただ）　薫（かおる）

今年度より天才アートＫＹＯＴＯの啓発・普及活動に関わらせていただくことになりました、京都市教育委員会総合育成支援課の多田薫と申します。

私は長らく総合支援学校高等部職業学科の教員として勤務をしておりました。生徒たちの願いの一つである「卒業後に障害者雇用枠を活用し企業就労する」の実現に向けて生徒たちと共に学びを進めて参りました。この2年間は総合育成支援課に籍を置き、障害や困りのある生徒や学校をサポートして参りました。また、学校や園で校務支援員として働く障害のある方々の職業相談業務等にも携わってきました。

毎年、天才アート展等で出会う圧倒的なデザイン力や色彩の渦、そして卒業生の作品を楽しんでおりましたが、アートに関する専門的な知識やセンスはありません。ただ、このご縁を大切に天才アートＫＹＯＴＯにつながる皆さま方から新しい世界を学ばせていただきたいと思っております。

アトリエで作品に対峙する作家さんの真剣な眼差しと空気に接する幸せを今、感じています。

理事　野田（のだ）　大輔（だいすけ）

この春、天才アートＫＹＯＴＯの理事に就任いたしました野田大輔と申します。現在は広告・出版関連のディレクターとして、企業や自治体の広報物、雑誌などの企画・編集などに携わっています。

グラフィックデザインの仕事を通じて、30年来お世話になっている角谷理事長からお声がけいただき、迷うことなくお引き受けしました。昨年末、ともに東京へ取材に出かけた帰りの新幹線で「作品の収蔵や発信のあり方」について伺い、自分にもお手伝いできることがあるのではと感じたことがきっかけです。そして〝きたアトリエ〟をお伺いしたとき、それは確信に変わりました。

障がいのある方々が自由な表現を通じて社会とつながり、個性を力に変えていく――そんな天才アートＫＹＯＴＯの理念には、デザインという仕事に携わる私自身も深く共感しています。活動の全容把握はこれからですが、今年の7月には大阪・関西万博への出展という大きな挑戦も控えています。アーティストの皆さんの作品がより多くの方に届くよう、広報・ＰＲや企画提案などで協力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

理事　伊東（いとう）　宣明（のぶあき）

このたび、天才アートＫＹＯＴＯの理事に就任いたしました伊東宣明です。

以前はプログラム・ディレクターとして、運営や展覧会の企画に携わっておりましたが、再びこの場に関わる機会をいただけたことを、大変うれしく思っております。天才アートＫＹＯＴＯは、私にとって「人間の創造性」と真摯（しんし）に向き合う場でした。人と社会、そして表現との関係を深く考える時間は、私自身の創作活動や教育実践に多くの示唆を与えてくれました。

現在は、現代美術作家としての創作活動に力を注ぐ一方、名古屋文理大学にてアート、映像、デザイン分野の教育を通じて次世代の育成に努めています。また展覧会企画者として、滋賀の福祉の現場から生まれた作品の展示にも携わり、表現の現場と教育の場、双方から作品が持つ力とその伝え方について模索する日々を送っています。

理事としては、これまでの経験で培った知見を活かしながら、天才アートＫＹＯＴＯの活動がより一層社会に開かれ、創作の現場がさらに豊かになるよう尽力してまいります。

今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

（撮影：吉次史成）

(株)レントさまの40周年を記念し、作品を制作

このたび、(株)レントから設立40周年を記念した作品制作のご依頼をいただき納品しました。同社は、建設機器や絵画のレンタル事業を展開され、当機構から多くの複製画を購入いただくなど、全社をあげて障碍者への支援に取り組んでおられます。

制作を依頼されたのは大場多知子さんで、作品には富士山や茶畑、駿河湾など本社のある静岡を象徴する景色に、レンタルされている建設機器や社屋・社旗、さらに達磨や大漁旗を掲げた祝い船・鯛、風神雷神図などめでたい題材が描かれています。

5月13日(火)に静岡市の同社本社で開催された作品贈呈式に招待され、岡田朗社長から感謝状と金一封を頂戴しました。

また同社は障碍者の作品をマグネットシートに印刷して、建設機器などに貼り付けレンタルし、その利益を還元する「スマイルあーと」うごく美術館プロジェクトをスタートされます。当機構の作品も建築現場で目にすることがあるかもしれません。

作品贈呈式での大場多知子さん(上左)と岡田朗社長(上右)、右は「スマイルあーと」のシンボルイラスト

art apace co-jin(きょうと障害者文化芸術推進機構)の施設見学会

5月10日(土)、東山アトリエの休日制作会においてart space co-jinで開催中の「Catcy Catch」展関連イベントとして「天才アートKYOTO施設見学会」が実施されました。当日は、7人の参加者と2人のスタッフが2グループに分かれ、当機構の説明を聴きながら熱心に見学されました。

同機構とは、今後も協力し合いながら活動していきたいと思います。

制作の様子を熱心に見学する参加者の皆さん

〈編集後記〉

大阪・関西万博をメイン会場に開催される「第3回日本国際芸術祭」に参加して、初めて海外を含めた来場者を対象に「天才アートEXPO展」を実施します。期間は5日間と短いですが、海外のお客さまにどのように受け止められるか、今から楽しみです。この場をお借りして、貴重な場を提供していただいた(一社)夢洲新産業・都市創造機構に心から御礼を申し上げます。

この経験を活かし、今後も天才アートKYOTOに触れていただける機会を積極的に増やしていきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【表紙の作品について】

石原の作品を前にした時、多くの人の目にはただの「セロハンテープを丸めただけ」の集合体のように映るかもしれません。しかし、その制作過程を知ると大きく印象が変わります。彼女は自分自身の手の平から上腕部にテープを貼付け、それを丸めて、次々と合体させてゆきます。その所作を1年にもわたって続けます。色がついている箇所は、紙にクレパスを塗り付けた後、そこに指をこすりつけて彩色し、テープに色を転写します。彼女は、テープを引っ張るときの音、そのテープを腕に貼付けそこで丸めてゆく感触、その「行為を楽しんでいる」のです。作品はそうした所作の集合体であり結晶ともいえます。

石原 寛子『増殖』セロハンテープ・クレパス、サイズ可変、2024年制作

HAGURUMA

画材・額縁
画箋堂
京都・河原町五条

京都上鳥羽の印刷会社
MORITA
(有)森田美術印刷
京都市南区上鳥羽火打形町12 ☎075-692-3131

SCREEN

一級建築士事務所
町家・古民家再生 / マンション改修
(株)共立ホームエンジニアリング
06 (6788) 5402 kap@hyper.ocn.ne.jp

妙心寺 塔頭
養徳院
永代供養のお寺 075-461-2898

一般財団法人
NISSHA財団
いのちを見つめ、人間を支える。

お客様に寄り添い、安心と安全をお届けします
総合リスクコンサルタント
株式会社プラニ
☎ 075-353-2522

Yoshimura Construction co.,ltd
吉村建設工業(株)
京都市中京区西ノ京小倉町135番地
075-802-1360

RKW
洛和会
ヘルスケアシステム®